

IV 開発教育指導者研修（実践編）第3回

■ 開催概要

- ◆ 日時：2016年8月27日（土）13:00～17:05、28日（日）10:00～17:07
- ◆ 場所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：[1日目] 受講者41名、JICA3名、NIED5名 合計49名
[2日目] 受講者42名、JICA5名、NIED6名、オブザーバー1名 合計54名
- ◆ ファシリテーター：（特活）NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第3回のねらい

★ 開発教育・国際理解教育のすすめかた

- ① 流れのあるプログラムの作り方について学び、参加型手法を習熟する。
- ② 実際にプログラムを作り、ファシリテーターとしてプログラムを実施する練習をする。
- ③ ファシリテーターの役割とよりよい参加型の進め方についてポイントとなることを確認する。

■ プログラムの内容

● セッション1 「第1回・第2回ふりかえりと第3回ねらいの確認」 8/27 13:00～14:10

1. 主催者挨拶 13:00～[02]

- ◇ JICA 中部 倉坪職員が開会を宣言し、第3回開催にあたっての挨拶を行った。

2. 第3回のねらいの確認、自己紹介～この夏一番の思い出 13:02～[13]

- ◇ 第1回、第2回をふりかえり、レジュメを基に第3回のねらいをと進め方をファシリテーターが説明した。
- ◇ 「この夏一番の思い出」というテーマで、グループ内で自己紹介を行った。



3. 第2回ふりかえり 13:15～[22]

- ◇ 第2回研修の記録を各自読み、印象に残ったところに下線を引いた。
- ◇ 下線を引いたものの中から特に印象に残っているものを3つ選び、その内容と選んだ理由について、グループ内で伝え合った。
- ◇ ファシリテーターコメント…参加型の学びは積み上げ型という特徴がある。学びを積み上げ、共通基盤を持って進めていく。

4. 子どもが一目置く大人とは～経験学習の4段階を体験 13:37～[26]

- ◇ 受講者自身の体験を用いて、次の手順で経験学習の4段階をふまえた。

<経験学習の4段階 体験の手順>

- ① 体験：子どもの頃、一目置いていた大人を各自3人程思い出す。その人がどんな人だったか、また、なぜ一目置いていたのかをグループ内で発表した。
- ② ふりかえり：メンバーが一目置いていた大人とはどのような人だったかをグループ内で発表し、共有した。
- ③ 一般化：共有した人物像から共通の要素は何かをグループで話し合い、A4用紙に書き出した。1グループ2つずつ読み上げ、全体で共有した。
- ④ 応用：自分は子どもとどう関わる大人でありたいかを個人で考え、グループ内で発表し合った。

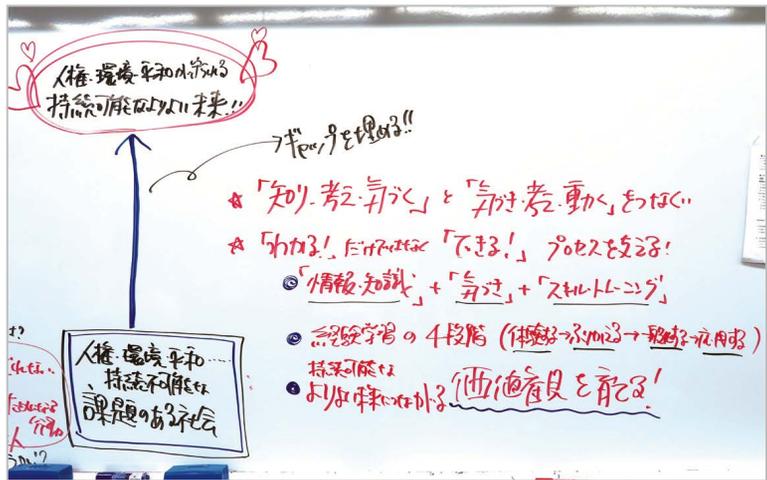
【「子どもが一目置く大人」に共通の要素】

- ◇温かみがある ◇遊び心がある ◇行動力がある ◇正しい道に導いてくれる ◇クリエイティブ
- ◇聞き上手 ◇ブレない ◇優しい ◇自分を持っている ◇自分がないものを持っている ◇知識や経験が豊か
- ◇人のためになるような行動をしている ◇生き様を見せてくれる ◇愛情と熱意を感じさせてくれる
- ◇一緒にいて楽しい ◇怖いけど愛がある ◇両親や先生など身近な人 ◇自分に対して真剣になってくれる

◇ ファシリテーターコメント…こういう大人が良いというひな形があるわけではない。どのような人でありたいかを一人ひとりが考えていくことが自分の行動に反映される。

5. 経験学習の4段階と開発教育・国際理解教育の目的 14:03-[07]

◇ ファシリテーターから、経験学習の4段階と開発教育・国際理解教育の目的をレクチャーした。



- <経験学習の4段階と開発教育・国際理解教育の目的>
- ・経験学習の4段階：①体験する→②ふりかえる→③一般化する→④応用する
 - ・体験だけでは終わらせないための「経験学習の4段階」。ふりかえり、一般化、応用をすることで、自分の日常につなげていく。
 - ・体験から何がわかるかを出し合い、わかったことを基に何を提案したらよいか、どうなるとよいかを考え、行動につなげるのが参加型のポイント。
 - ・内発的に気づけば、行動につながる。参加型学習は、知識、情報、スキルトレーニングを提供するプログラムになっている。「わかる」だけでなく「できる」人を育てたい。この点を意識したプログラムを作る。開発教育・国際理解教育は、自ら考え、主体的に行動する人を作る教育。

● セッション2 「価値観とスキルを育てるための手立て」 8/27 14:10-15:33

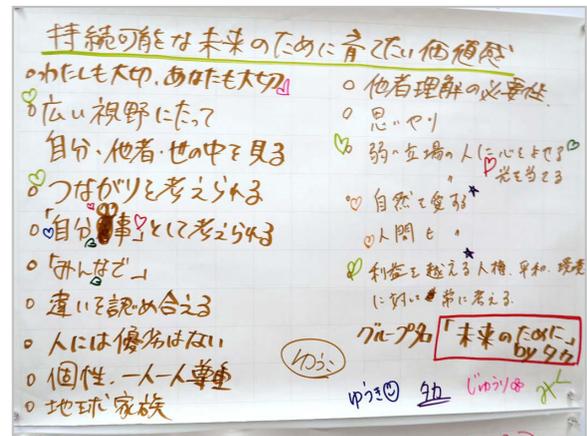
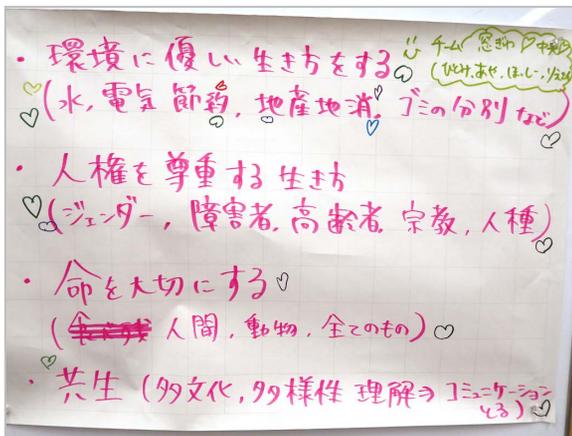
1. 持続可能な未来をつくるために育てたい価値観 14:10-[23]

- ◇ まずは自分の価値観を振り返ることから始めた。持続可能な未来を創っていくために育てたい価値観を個人で考え、A4用紙に書き出した。
- ◇ グループ内で共有し、半模造紙にまとめた。模造紙に、グループ名とメンバーの名前を書いた。
- ◇ 模造紙を回し読みし、共感したものに♡印や★印をつけた。
- ◇ ファシリテーターコメント…価値観とは、自分の行動の基になっているもの。価値観が変われば行動が変わる。どんな価値観を育てることが課題のある社会を変えていけるのかを考えよう。人と社会の健やかさの鍵は教育にある。



【「持続可能な未来を創っていくために育てたい価値観」成果例】

◇前向き ◇思いやり ◇関心を持つ ◇自己理解・自己肯定 ◇自分の考えに自信を持つ→自己肯定感を高める
 ◇自分の考えを自由に言える ◇違いを認め合える ◇他者理解の必要性 ◇個性・一人ひとり尊重
 ◇人には優劣はない ◇人とつながって生きている→自分も相手も大切に ◇共生 (多文化・多様性・理解→コミュニケーションを取る) ◇人権を尊重する生き方 (ジェンダー・障害者・高齢者・宗教・人種)
 ◇弱い立場の人に心を寄せる・光を当てる ◇利益を越える人権、平和、環境に対して常に考える ◇広い視野を持って自分・他者・世の中を見る ◇自分事として考えられる ◇自分から行動する ◇1人ひとりの行動が変われば大きな影響力を持つ ◇社会に貢献できる (自分と社会をつなげる) ◇持続可能な社会
 ◇生きるものすべてが同じ地球コミュニティーに住む仲間 (地球に住まわせてもらっている) ◇自然を愛する・人間も愛する ◇環境に優しい生き方をする (水・電気の節約、地産地消、ゴミの分別など) ◇自然と共生しようとする ◇もったいない精神 ◇食べ物を大切にする ◇命を大切にする ◇本当の豊かさ、幸せってどんなこと?! ◇様々な物に対して肯定的な考えを持つ→自分の物差しだけで考えない ◇固定観念や先入観を捨てる ◇様々な視点を持つ ◇個性を認め、活かす (人だけではなく、自然・資源も) ◇「ない」より「ある」全ての物に感謝 ◇諦めないで続ける



2. グループ替えと自己紹介 14:33-[07]

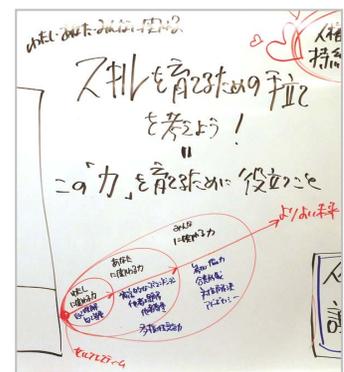
- ◇ グループ内でジャンケンをし、勝った人と負けた人が前後に動いてグループ替えをした。
- ◇ 始まってからこれまでを思い返し、分かったこと・感じた事・気づいたことをテーマに自己紹介を行った。

3. わたし、あなた、みんなに関わるスキルを育てるための手立て 14:40-[33]

- ◇ ファシリテーターから、「わたし」「あなた」「みんな」に関わる3つの力について説明した。

- 1) わたしに関わる力…自己理解、自己肯定感
- 2) あなたに関わる力…コミュニケーション、他者理解、他者尊重
- 3) みんなに関わる力…社会に関わる力、多様性受容力、合意形成、政策提言

- ◇ グループに「私に関わる力」「あなたに関わる力」「みんなに関わる力」を割り振り、その力を育てるための手立てを考え、模造紙に書き出した。また、その力が育つことを阻むものがあれば、同じ模造紙に書き出した。
- ◇ 隣のグループに模造紙を渡し、受け取った模造紙のテーマについて違う色のマジックで意見を書き加えた。3つの力を考えるため、模造紙を隣のグループに渡し、同様に書き加えた。
- ◇ 元のグループに模造紙を戻し、書き足されな意見と作業を振り返り、グループで感想を共有した。
- ◇ ファシリテーターコメント…スキルがあれば行動につながる。スキルは練習すれば誰でも身につく。この研修での自己紹介も、「わたしに関わる力」を育てるスキルトレーニングの一つ。



【「わたし・あなた・みんなに関わる力を育てるための手立て」成果例】

① わたしに関わる力

◇自分について知る・語る ◇自分のいい所を探す・人のいい所を探す ◇いろんな人に出会う ◇他者からの肯定 ◇共感 ◇感謝する・される ◇好奇心 ◇笑う・楽しむ ◇好きなこと・得意なことを継続する ◇苦手なことを受け入れる ◇弱点を知り認める ◇上手くいかない自分でも大丈夫!と思える ◇「こうなりたいな」というモデルケースを見つける ◇目標を立て、達成する ◇限界を決めない→可能性を信じる ◇苦手を克服するための努力 ◇失敗を恐れずチャレンジする ◇成功体験・失敗体験 ◇役割を持つ・責任を持つ ◇自分を見つける時間を作る ◇自分を客観的に見る ◇本を読む→知る→自分もこれでいいんだと思える ◇自分で生活する ◇自分の居場所を見つける ◇自由に素直に生きる

◆阻むもの… ◇否定 ◇悪口 ◇話を聞いてもらえない ◇差別 ◇偏見 ◇依存 ◇他力本願 ◇理想と現実のギャップ ◇多忙→自分について考えない ◇諦め ◇やりすぎ ◇その場しのぎ ◇周りを気にしすぎる ◇人と比べる ◇排除 ◇閉塞感 ◇貧困 ◇お金 ◇権力者 ◇戦争

② あなたに関わる力

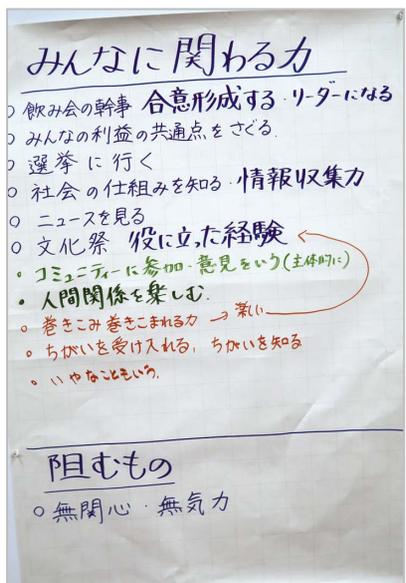
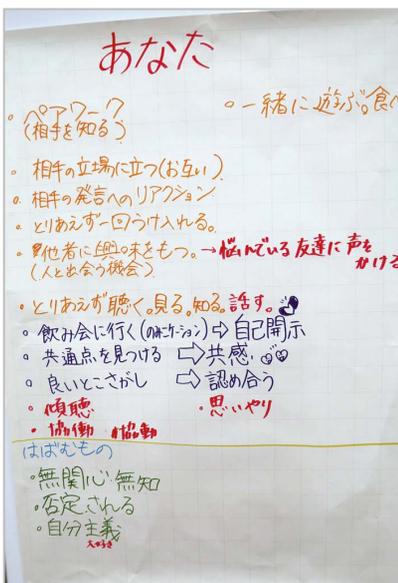
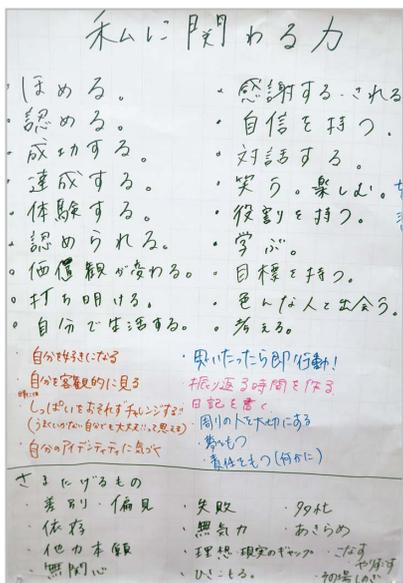
◇相手に興味を持つ ◇相手を知る ◇オープンな気持ちで相手と接する ◇積極性 ◇アイスブレイク ◇インタビュー ◇自己紹介（自己理解）・他者紹介 ◇わたしメッセージを伝える ◇相手の発言へのリアクション（相手を誉める・笑顔・うなずく） ◇傾聴 ◇とりあえず一回受け入れる ◇共通点を見つける→共感 ◇いいところ探し→認め合う ◇違いに気づき認める ◇違いを知り理解する ◇頼りにする ◇相手の立場に立つ ◇想像力 ◇思いやり ◇一声かける ◇ありがとうとごめんなさいを素直に言う ◇意見をぶつけ合う ◇こまめに連絡を取り合う ◇縦と横のつながりを作る ◇協力・協働 ◇同じものを共有する（目的・時間・食・遊び・スポーツ・生活） ◇みんなで楽しむ ◇いろんな場所に出掛け人と出会う機会を作る

◆阻むもの… ◇無関心 ◇無知 ◇固定観念、先入観 ◇相手を受け入れない心 ◇恥ずかしい気持ち ◇自分で決められない（もめたくない・人との違いが怖い・ルールが敷かれる） ◇否定される ◇自分大好き主義 ◇自由が不自由に感じてしまう社会 ◇電子機器 ◇忙しさ

③ みんなに関わる力

◇場の共有 ◇みんなが話せる雰囲気作り ◇全員の共通点をさぐる ◇違いを知る・受け入れる ◇話し合う ◇みんなで一つのことを作り上げる・目標に向かっていく ◇学校行事→自分の役割・みんなでやる ◇挨拶 ◇掃除 ◇成功体験 ◇達成感 ◇居場所 ◇喜びを共有する ◇人間関係を楽しむ ◇家族・友人を大切にすること ◇地域との関わりを持つ・参加する ◇主体的に意見を言う ◇違うコミュニティーに参加 ◇今まで接したことのない人と接してみる ◇多様な世代との関わり ◇巻き込み巻き込まれる力 ◇情報収集力 ◇本を読む ◇国際理解教育 ◇世界の現状を知る ◇どんな社会にしたいかビジョンを持つ ◇ソーシャルスキルトレーニング ◇アクティブラーニング ◇エンカウンター ◇選挙に行く ◇ボランティア ◇インターンシップ

◆阻むもの… ◇無関心 ◇無気力 ◇余裕のなさ ◇現状の居心地の良さ ◇失敗したらどうしよう ◇恐怖心 ◇否定的な考え方を広げようとする



- 休憩 - 15:13-[07]

4. ソーシャルスキルトレーニングのアクティビティ 15:20-[13]

- ◇ 資料『ソーシャルスキル資料』を配付。グループ内で分担して読み、どんなスキルについて書かれていたか、具体的な練習の仕方、スキルを身につけるためのポイントだと思ふことを伝え合った。

● セッション3 「プログラムの作り方 ～ねらい／流れ・ストーリー／参加型手法～」 8/27 15:33-16:19

1. グループ替えと自己紹介 15:33-[08]

- ◇ グループ内でジャンケンをし、勝った人と負けた人が横に動いてグループ替えをした。
- ◇ 資料『NIED 自己紹介 100 選』から気になるものを1つ選び、グループ内で自己紹介を行った。

2. プログラムとは何か 15:41-[04]

- ◇ 資料『参加型プログラム作りのノウハウ NIED 版』を配付。1 ページ目を個人で読んだ。
- ◇ 資料を基に、プログラム作りにおいて大切な点をファシリテーターから説明した。

＜プログラム作りにおいて大切な点＞

- ・ねらいの設定…プログラムの軸となるもの。何を達成するためのプログラムか。学習者が、何を知り、何に気づき、何を考えだすと良いか？
- ・流れ…プログラム全体を意味のあるつながりとして、学習者が発見できる「起承転結」のストーリー。学習者の意識の流れに沿って、最終的に「結」に向かうためのストーリーを組み立てる。何から考えたら「結」を考えられるのか、その順番を考える。この起承転結にアクティビティを当てはめ、プログラムができる。
- ・参加型手法…発見や共通理解を助けるための手法を用いる。話し合いの内容を視覚化し、共通理解を助ける。

3. 流れのあるプログラムの作り方 レクチャー -----

3-1. 第1回と第2回のプログラムを「ねらい」と「流れ＝起承転結」という視点でふりかえる 15:45-[14]

- ◇ 資料『第1回研修 プログラムの流れとアクティビティ解説』を配付。資料を基に、指導者研修第1回のプログラムをファシリテーターが解説した。
- ◇ 近くの人とペアになり、第1回のねらい、I 準備、II ①～④四行詩、III ①～④を分担して読み上げ、1日の流れを確認した。同様に第2回についても確認した。
- ◇ ファシリテーター…流れがあると、学習者は何を学んだかを実感でき、ねらいの達成感を得られる。こちらから伝えたいことと、学習者自身が気づいてほしいことが明確に整理されていると分かりやすい。



3-1. 第1回と第2回のプログラムを「手法」という視点でふりかえる 15:59-[20]

- ◇ 『参加型プログラム作りのノウハウ NIED 版』P6～12の手法を確認しながら、指導者研修第1回と第2回について手法という視点で振り返り、グループでどんな手法を使ったかを話し合って確認した。
- ◇ ファシリテーター…プログラムのストーリー「起承転結」のそれぞれに、参加型のアクティビティと手法を当てはめることでプログラムができています。手法は、配付資料以外にもたくさんある。同じ手法でも、団体によって名前が違う場合もある。配付資料は、開発教育・国際理解教育の分野の人々がよく使う手法である。

● セッション4 「どんな時どんな手法!? ～習うより真似る! 慣れる!」 8/27 16:19-17:07

1. アクティビティと参加型手法 活用の練習 16:19-[34]

- ◇ 『参加型プログラム作りのノウハウ NIED 版』P6～12に掲載されている15個の手法をグループ内で分担し、一つの手法につき1～2個のアクティビティを考えた。使用する場面、生まれる成果を質より量で考え、A4用紙に書き出し、グループ内で発表した。
- ◇ ファシリテーター…手法は習うより慣れることが大切。数を考えることで、イメージしやすくなる。参加型手法によっていつもとは違う枠組みで物事を考えるこ



とで、新しい発見、気づきを得られる。

2. 2日目のスケジュール確認と1日目の感想共有 16:53-[12]

◇ 2日目は、テーマに基づいたアクティビティを作ることを伝え、7人×7つのグループを作った。各グループには、指導者研修リピーター、教師海外研修受講者、JICA 推進員が入った。

<7つのテーマ>

- | | | |
|------------|-------------|-----------------|
| ①多様性と同一性 | ②自分と世界のつながり | ③自尊感情とコミュニケーション |
| ④グローバルイシュー | ⑤貧困・格差問題 | ⑥持続可能な環境 |
| ⑦積極的平和 | | |

◇ グループで、1日目の感想を一言ずつ伝えあった。

★ 17:07 終了

● JICA TIME 8/28 10:00-10:12

1. JICA TIME 10:00-[11]

◇ JICA 中部 倉坪職員が、2日目開始にあたっての挨拶を行った。

◇ JICA 事業について、推進員より案内・告知を行った。

・エッセイコンテスト ・世界の笑顔のためにプログラム ・現職参加について

・指導者研修のスキルを活かす！指導者研修受講者その後の活動（中部 BQOE 研究会／はままつ国際理解教育ネット／AIUEO「あいち国際理解教育勉強会」／各県の開発教育指導者研修初級編講師）

● セッション5「教師海外研修報告」 8/28 10:11-11:07

1. 技術系グローバル人材育成コース報告 10:11-[11]

◇ 技術系グローバル人材育成コースでこの研修に参加している受講者が、フィリピンでの現地研修について、①フィリピン基本情報、②フィリピンの町の様子、③訪問先と視察・研修内容、④現地研修での学びを現地の写真と共に紹介した。報告の最後には、写真をまとめたスライドショーを行った。



2. 教師海外研修パラグアイチーム報告 10:22-[21]

◇ 同行ファシリテーターの挨拶の後、パラグアイチームが ①パラグアイ基本情報、②日系人社会、③エネルギー（水力発電）、④イグアス潮流域総合管理体制強化プロジェクトとモデル農家、⑤日本人の活躍、⑥政策と国民の実態について、現地の写真とパラグアイの文化「テレレ」の実践とともに紹介し、研修を通しての感想と思い出の写真1枚を1人ずつ発表した。



3. 教師海外研修エチオピアチーム報告 10:43-[24]

◇ 同行ファシリテーターの挨拶の後、エチオピアチームが ①エチオピアの挨拶、②エチオピア基本情報、③食文化、④水事情、⑤学校の様子、⑥青年海外協力隊・専門家の活躍について現地の写真とともに紹介し、支援の在り方と現地研修を通して学んだことを、現地でふりかえりワークショップを再現する形で発表した。



● セッション6「プログラムを作ろう！」 8/28 11:07-14:01

1. テーマに関する理解／ねらいの設定／ストーリー作り 一緒に練習しよう！ -----

1-1. グループ作りと自己紹介 11:07-[24]

◇ 1日目に決めたグループになり、プログラム作りの7つのテーマのうち最も関心のあるものをテーマに、グループ内で自己紹介を行った。

◇グループで扱うテーマをくじ引きで決めた。7つのテーマは、「開発教育・国際理解教育が扱う5つの柱（※指導者研修第2回記録参照）」に沿ったテーマであることを確認した。

1-2. プログラム作りシミュレーション 11:31-[150]

◇資料『プログラム作りの流れ』を配付。次の手順で、グループでプログラム作りのシミュレーションを行った。

- <プログラム作りシミュレーションの手順>
- ① テーマを理解する…テーマについてブレインストーミングを3分間行った後、このテーマに関する自分の思い・願いを2分間で書き加える。
 - ② 対象を定める…プログラムの対象を決め、A4用紙に書き出す。
 - ③ ねらいを設定する…参加者が「何に気づくと良いか・何を知るとなると良いか」「どう考え行動すると良いか」を対比表で書き出す。対比表を振り返り、自分の思い、願いが入っているか、その願いが持続可能なよりよい未来につながる価値観とつながっているかを確認する。
今回のシミュレーションはプログラム作りの練習のため、予め各テーマのねらいをファシリテーターが設定した。
 - ④ プログラムの流れを考える…参加者の意識の流れを考え、書き出した対比表に順番をつけ、起承転結のストーリーを考える。
 - ⑤ ストーリーの再考…ファシリテーターが設定したねらいを確認し、プログラムのストーリーを再考する。
 - ⑥ ストーリー作り…ねらいを達成するストーリーを考え、4行詩（起承転結のストーリー）を設定する。

◇発表用の模造紙の書き方を説明し、14時から発表を行うことを伝えた。グループごとに昼休憩を取った。

The image shows handwritten notes and a program flow chart. On the left is a mind map titled '自尊感情とコミュニケーション' (Self-esteem and Communication) with branches for '自己肯定感' (Self-esteem), '自己肯定感の向上' (Improvement of self-esteem), '自己肯定感の低下' (Decrease of self-esteem), '自己肯定感の維持' (Maintenance of self-esteem), '自己肯定感の回復' (Recovery of self-esteem), '自己肯定感の喪失' (Loss of self-esteem), '自己肯定感の獲得' (Acquisition of self-esteem), '自己肯定感の維持' (Maintenance of self-esteem), '自己肯定感の回復' (Recovery of self-esteem), '自己肯定感の喪失' (Loss of self-esteem), '自己肯定感の獲得' (Acquisition of self-esteem). Below the mind map are two columns of notes: '知る 気づく' (Knowing/Realizing) and '考え行動する' (Thinking/Acting). The right side shows a program flow chart with a table structure.

タイトル	わたしのステキなところ	チーム	Team TAKA
ねらい	① 自己に対する肯定的な態度の必要性と理解が、 ② わたしを知る。		
対象	中1(外国人生徒を含む)	時間	50分×2
展開	起: どなか好き?好きなところを伝えよう。 承: 喜ぶ水戸黄門に言葉、悲しい言葉 転: 認められたら... 否定されたら... の思い 結: 自分、友だちのいいところを褒めて、伝えよう!		
時間	プログラムの流れ		準備物
10分	1. アイスクレーキング ◇4つのコート		紙、ペン、ドラエモン、どなかと決めた
15分	2. どなか好き? <グループ> ◇キャラクターの好きなところを伝える理由		みんなが気づいていいよね
25分	3. 喜ぶ水戸黄門に言葉、悲しい言葉(何だ?と) ◇心の玉手箱 <マジック>		せん、横道紙、カラマシ、マジック
20分	4. 認められたら... 否定されたら... どう思うだろう? ◇どんな気持ちになるかと考える <紙生回>		横道紙、カラマシ、マジック
25分	5. 自分のよいところを褒めて、伝えよう、友だちのよいところ ◇メッセージカードに友だちのよいところを書いて伝える		メッセージカード、1人1人いいところがあるね!
5分	6. 3.ソング		

● セッション7「実践！ファシリテーション！&ふりかえり」 8/28 14:01-16:48

1. プログラム発表 ～7人グループによるサークルプレゼン 14:01-[126]

- ◇プログラムを可動式ホワイトボードに貼り、どの部分を参加型で実践するかをグループ内で話し合った。
- ◇グループメンバーに1～7までの番号を振り、発表用にグループ替えを行った。
- ◇サーキットプレゼン方式にて全体共有を行った。持ち時間は1人15分とし、時間配分は「プログラムの説明3分→参加型実践9分→フィードバックを付箋に記入3分」とした。

<サーキットプレゼン方式>
模造紙を可動式ボードに貼り、その模造紙を書いたメンバーがグループ内でプレゼンを行う。1人プレゼンが終わるごとにボードを隣のグループに移動し、都度その模造紙を書いたメンバーが同じようにプレゼンを行う。

【プログラムのねらいと展開】

① 多様性と同一性

ねらい：人の多様性と共通性を理解することの大切さに気づく	
対象／時間：小学校高学年	
4行詩： 起) 日本とカンボジアを知ろう 承) 日本とカンボジアの“ちがい”と“同じ”を見 つけよう 転) ちがいを否定されたらどう思う？ 結) ポジティブレスポンスを考えよう	流れ： 1) アイスブレイキング 2) 日本じまん・カンボジアじまん 3) 日本とカンボジアの違いと同じを見つける／対比表 4) 自分の文化を否定されたらどうか考える／ロール プレイ 5) 言われたら嬉しい平和的解決（ポジティブレスポ ンス）ができるような言葉を考える

② 自分と世界のつながり『わたしからつながる世界へのWa!!』

ねらい：自分と世界はつながっていることと自分の影響力に気づく	
対象／時間：中学1年生（35人クラス）／50分×2	
4行詩： 起) 世界から日本に来ているものについて 承) 日本から〇〇がなくなるとどうなる？！ 転) 世界にある日本の物・技術 結) 世界とよりよい関係を気づくために私たちにで きることは何だろうか？	流れ： 1) アイスブレイキング 2) 世界から日本に来ているものは何だろう？／KJ法 3) 日本から〇〇がなくなるとどうなる？！／派生図 4) 日本が世界に貢献している様子を知ろう！／フォ トランゲージ 5) 世界と日本（わたし）がよりよい関係を築くため にわたしができることは何だろうか／指標作り

③ 自尊感情とコミュニケーション『わたしのステキなところ』

ねらい：自他に対する肯定的な態度の必要性を理解し、その力を高める	
対象／時間：中学1年生（外国人生徒を含む）／50分×2	
4行詩： 起) どこが好き？好きな所を伝えよう！ 承) 言われて嬉しかった言葉・悲しかった言葉 転) 認められたら…、否定されたら…どう思う？ 結) 自分・友達のいい所を探して伝えよう！	流れ： 1) アイスブレイキング 2) どこが好き？～みんなちがっていいよね～ 3) 言われて嬉しかった言葉・悲しかった言葉って何 だろう？～どんな言葉があるかな？～／KJ法 4) 認められたら…、否定されたら…どう思う？～言 葉のチカラって大きい♪～／派生図 5) 自分のいい所、友達のいい所を探して伝えよう！ ～一人ひとりいいところがあるね！～ 6) ふりかえり



④ グローバリシュー『日本と世界はつながっている!!』

ねらい：グローバルイシューとは何か、なぜ問題なのかを理解する	
対象/時間：中学1年生35人クラス/50分×2	
4行詩： 起) 日本について知ろう！ 承) 世界について知ろう！ 転) グローバリイシューが与える影響について考えよう！ 結) 私たちに出来ることって何だろう？	流れ： 1) 日本について知ろう「いいところ」「課題」/対比表 2) 世界について知ろう→グローバルイシューを知る/二次元軸表 3) グローバリイシューが与える影響について考えよう/派生図 4) 私たちに出来ることって何だろう？/ブレインストーミング→行動宣言

⑤ 貧困・格差問題『貧困って、どこで起こってるの』

ねらい：貧困について理解し、貧困を越える手立てを考える	
対象/時間：中学3年生	
4行詩： 起) 貧困って何だろう？ 承) 貧困の原因とその結果何が起こるか知る 転) 身近な貧困に気づく 結) 自分が出来ることは？	流れ： 1) アイスブレイキング 2) 貧困って何だろう？～貧困のイメージ出し/KJ法 3) 貧困の原因とその結果何が起こるか知る/フォトランゲージ 4) 身近な貧困に気づく～人が生きるために必要なものは？/ランキング 5) 自分が出来ることは？

⑥ 持続可能な環境『理想の未来はぼくたちがつくる』

ねらい：持続可能性について理解し、持続可能な消費について考える	
対象/時間：中学2年生/100分	
4行詩： 起) 未来はどうなるか？ 承) 今、怒っている世界の環境問題 転) なぜ今、このような環境問題が起こっているのか？ 結) 自分が未来のために出来ることは何だろう？	流れ： 1) アイスブレイキング 2) ぼくの、私の理想の未来/イメージ図 3) 今の世界の環境問題/フォトランゲージ 4) 環境問題の原因は何か？/派生図 5) 考えを共有する 6) ぼく、私が未来のために出来ること/行動計画

⑦ 積極的平和

ねらい：積極的平和な社会のビジョンを描き、実現の道のりを考える	
対象/時間：中学3年生	
4行詩： 起) 積極的平和って何？ 承) 世界で起きている課題について知る 転) 原因から目指す社会のビジョンを考える 結) 自分に出来ることを具体的に考える	流れ： 1) 平和と聞いて思いつくことは？→積極的平和を理解する/KJ法 2) SDGsの手紙を読んで課題を出し合う 3) 積極的平和な社会構築に向けて「友好的に働くもの」「阻むもの」/力の分析 4) 自分に出来ることを具体的に考える/リスト作り

2. ふりかえり 16:07-[22]

- ◇ ファシリテーターから、『実践報告フォーラム 2017』でも同様に発表を行うことを伝えた。フォーラムでの持ち時間は、1人14分間（9分プログラム紹介+5分質疑応答）。
- ◇ フィードバックをグループで確認した。
- ◇ 個人で次の視点で振り返り、グループで共有した。
 - ① 実践してみてどうだったか
 - ② 次の同じプログラムを実践する場合、どう改善すると良いか



3. よりよい参加型を進めるよりよいファシリテーターのポイント 16:29-[13]

- ◇ よりよい参加型を進めていくために、人がよりよく学び、よりよく変わることに寄り添うファシリテーターとして大切だと思うポイントをグループで7カ条にまとめ、読み上げて全体共有した。

【「人がよりよく学び、よりよく変わることに寄り添うファシリテーターのポイント7箇条」の成果】

<ul style="list-style-type: none"> ① 参加者を信じる ② ねらい、ねがいを持つ ③ 自分も共に学ぶ ④ 受け止める、聴く ⑤ 柔軟性 ⑥ 入念な準備 ⑦ 時間の使い方 	<ul style="list-style-type: none"> ① 笑顔で平等に聞く ② 準備はじっくり（シミュレーション・情報など）、本番スマート（時間配分など） ③ ねらいをしぼる ④ 主役は生徒（児童）、ファシは見守り役 ⑤ 自分も楽しむ ⑥ 臨機応変に対応 ⑦ 行動につなげる

<ul style="list-style-type: none"> ① ねらいをしっかり！！ ② 準備完璧☆ 運営柔軟 ③ 意見を言しやすい環境づくり（笑顔、受入れ） ④ 時間に余裕を！！ ⑤ いっぱいほめる ⑥ 引き出そう ⑦ とにかく楽しむ！ 	<ul style="list-style-type: none"> ① 話しやすい雰囲気作り ② 意見を認める・受け入れる ③ ねらいに向けて舵を取る ④ 声の大きさ ⑤ タイムスケジュール・見通し ⑥ 作業の指示を分かりやすく ⑦ プレない！！

<ul style="list-style-type: none"> ① ねらいをはっきりさせ、よく理解して進める ② 受け入れやすい資料やアクティビティの提供 ③ 全員がわかる説明 ④ 参加者の様子をよくみる ⑤ 臨機応変に対応（肯定的に） ⑥ 子ども自身が答えを導き出せるプログラム作り ⑦ あたたかく、意見の言しやすい雰囲気作り 	<ul style="list-style-type: none"> ① 事前準備はしっかりと（イメトレ・練り合い・人を巻き込んで準備） ② 社会のことに関心を持つ ③ 答えを引き出す、本音を引き出す ④ 認める“場”作り ⑤ 楽しむ！！みんなで楽しむ ⑥ 人と人をつなぐ ⑦ 夢が持てるようにする

<ul style="list-style-type: none"> ① 参加者を信じる！ ② 準備をしっかり！ ③ ストーリー性をしっかり！ ④ 参加者全員を参加させる！ ⑤ 否定しない！ ⑥ 意見が言しやすい雰囲気作り！ ⑦ 臨機応変にねらいを達成！ 	

- ◇ ファシリテーターコメント…私たちは人を変えることはできない。しかし、人が変わる場と方法を作ることはできる。そこに寄り添うのがファシリテーターである。

4. 全体ふりかえり 16:42-[06]

◇第3回の2日間をふりかえり、グループ内で感想を共有した。

● セッション8 「第4回研修・実践報告フォーラム2017の概要説明と準備のお願い」 8/28 16:48-17:07

1. 第4回研修・実践報告フォーラム2017の概要説明と準備のお願い 16:48-[13]

- ◇ 資料『第4回研修・実践報告フォーラム2017に向けた3つのお願い』を基に、事務局から説明を行った。
- ◇ 実践報告フォーラム2017にて行う4つの分科会体験ワークショップを担当する有志を募った。



2. 事務連絡 17:01-[06]

- ◇ JICA 推進員より JICA 関連事業の告知を行った。
 - ・はままつ研究会 ・秋のフェアトレードタウン祭り ・ワールドコロポフェスタ
 - ・青年海外協力隊募集説明会、現職教員特別参加制度説明会 ・あいうえお愛知交際理解教育勉強会

★ 17:07 終了

— 研修で使用了教材の出典等一覧 —

- ・『「一言自己紹介」お題100選』…NIED
- ・『ソーシャルスキルトレーニング①自己理解／②考えと気持ちのコミュニケーションⅠ話すスキル／③考えと気持ちのコミュニケーションⅡ聴くスキル／④あたたかい言葉をかけるスキル／⑤感情をコントロールするスキルⅠ感情に気づく／⑥感情をコントロールするスキルⅡ感情を調整する／⑦自尊心を高めるスキル／⑧敬意を払うスキル』…渡辺弥生・小林朋子編著 『10代を育てる ソーシャルスキル教育』北樹出版
- ・『参加型プログラム作りのノウハウ』…NIED
- ・『参加型手法の解説～12のものの見方・考え方から』…：ERIC 国際理解教育センター編 『参加型で伝える12のものの見方・考え方』1997年／『教室から地球へー開発教育・国際理解教育虎の巻』2006年、JICA 中部
- ・『プログラム作りの流れ』…NIED

※JICA…独立行政法人国際協力機構

※NIED…特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター